

優秀賞

心の帰り道を

足立区立第十四中学校 3年 石田 心美

ただいま。今日は言わなかった。私は母と昨晩から採めている。無言で部屋に入ると、すぐさま母が二階から降りてくる。

「ねえ、ただいまって言った？」

少し苛立っているような声色。やっと帰宅した私に、説教を始めるつもりなのだろうか。

「家を出るときは行つてきます。帰ってきたらただいま。約束でしょ？」

始まりました。こんな事なら帰つてこなきゃよかった。私は、そのままの言葉を母へ投げつけた。少しすると、母は静かに

「買い物に行つてきます。」

と言つて外へ出た。

「ただいま。」

帰宅した母は、私の一番好きな唐揚げを作った。食べ物でつるのか。ずるい。仕方なく私は口へ唐揚げを運んだ。

「おいしいよ。」

無愛想に伝えた。それなのに、母はとても嬉しそうな顔でこちらを見つめる。喧嘩しているのに、どうしてそんな顔ができるんだ。

「怒つてないの？」

「怒つてないよ。だから、明日は元気に帰つてきてね。」

帰り道。手伝いでもしようかな。昨日あんなに重かった足が、今日は軽い。むしろ早足で家に向かっている。今更だけど、帰る場所があるって、とても幸せで温かいことだ。

帰る場所は、家かもしれないし、職場かもしれないし、学校でも、近所の定食屋さんかもしれない。一つでも見つけられたら、その人は恵まれている。世界には、自分の帰り道を探して毎日迷っている人が数えきれないほどいる。私たちは、帰り道、時に足取りが重くなつてしまうことがある。でもそれは、当たり前前に帰る場所があるからこそ。帰るべきところがあることに、ありがたみを忘れてはいけない。だから、私には大好きな家族と住める家があるように、私自身も誰かのただいまの場所になりたい。帰り道をつくりたい。